

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101131		
法人名	医療法人一穂会		
事業所名	グループホームハイジの家 1階		
所在地	浜松市西区西山町520番地		
自己評価作成日	平成27年1月28日	評価結果市町村受理日	平成27年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kami=true&jiyosyoCd=2277101131-008&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの個性を尊重し、利用者の気持ちを第一に考え支援していきます。法人内の療養型施設に隣接し、健康面、精神面の対応にも安心です。その人らしい暮らしが継続できるよう、スタッフ間で意見を出し合い統一したケアに努めています。常に清潔であるようにこころ掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とした心強いサポートで暮らしを支える事業所です。「自分で食べたものくらい洗わないとね」とにこやかな表情で洗い上げの順番を待つ姿に和やかな日常がありますが、重度化の波にケアの方法も身体介護技術が求められるようになりました。管理者、主任を中心に移動、移乗や嚙下状態の確認といった勉強会とフィードバックを繰り返し、確実なステップアップとなっています。また本年はセンター方式に取組み、利用者理解が深まっています。文章化するアセスメントシートもより着眼点が明確になり、発語のない利用者のプラン作成に悩んだ職員も、関わりの積み重ねによって言葉や笑顔が増えていく手応えを感じています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「気持ちのわかる親切」「清潔」「和やかな雰囲気」を基本にしている。管理者、職員との共有にあたり、繰り返し理念についての話や確認が必要と感じ実践していくようにしている。グループホームの理念についても同様である。	法人理念、事業所理念は玄関に掲げています。法人理念の浸透と共に「事業所としてもほしい」との声から職員全員で考案しました。年に一度の面談で理念についての振り返っており、なかでも「清潔」は意識が高く「汚れたらすぐに」が徹底されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内のお祭りの参加やお店の利用に留まっており日常的な交流にはいたっていない。法人全体として行っており、グループホームとしての関わり方を模索中である。	母体病院敷地内の一画にあり日常的な交流は叶っていませんが、近くにある神社の祭典や地元住民で賑わう法人夏祭りに出向き、ふれあいを愉しんでいます。ギター、ピアノ演奏や高校生ボランティアの受入れもあります。	地域包括ケアを視野に入れ法人のスケールメリットを活かした地域交流を期待いたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体として行っている。グループホームとして地域の方への働きかけは、現状として出来にくい部分がある。運営推進会議にて、情報を伝えたりボランティアとの交流により理解を深めて頂くよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動、現状報告が主であるが、地域包括支援センター職員、地域住民代表、市担当者、ご家族代表等の方々より地域の様子や防災関係については貴重な情報収集の場となっている	奇数月の第三火曜日と定め定期開催しています。インシデント、アクシデントについての詳細な報告にアイデアが寄せられ、年度初めには自主防災委員に施設内見学をお願いしました。近隣の危険箇所といった貴重な情報が得られています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に一度の運営推進会議にて、市の担当者に現状を報告し、市の相談員の来訪にて現状をみて頂いている	運営推進会議には毎回出席があり議事録を手渡しています。地域包括支援センターには困難事例を相談し、年に3回のグループホーム連絡協議会や事例検討と発表会、ケママネ連絡会の繋がりもあります。訪れる介護相談員は気になることがあれば進言くださっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の周知については、法人内の研修に参加し理解していくようにしている施錠については利用者の状況にもよるが基本的には開錠としている。時間帯ややむをえない場合のみとしている。	法人内勉強会や伝達講習で学んでいます。過去に単独外出もあったことから、電子ロックは職員が1名となる時間帯に限り施錠し、利用者の所在と職員配置を確認する責任者を決めて開錠しています。居室サイドコールやセンサーマットにはプライバシーも考慮して訪室しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束を学ぶ際に、虐待についても学んでいます。高齢者虐待防止関連法についての記述はあるもののすべての職員が閲覧し考えていく事が出来るよう努めていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	院内研修にて勉強するのみに留まり、活用支援については、法人内の担当者が主にやっている。知識として学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人内相談課にて十分な説明のもと、不安や疑問に関しては、管理者が直接説明する機会を設けており、理解している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議での意見交換、面会時や介護計画立案時に意見や要望を聞き、必要であれば、その都度電話にて説明をしている。	面会時の対話や電話連絡、サービス担当者会議、法人内アンケートと機会を設けています。ほとんどが感謝の言葉ですが、直接言いにくい記述もあり改善策を講じています。わかりにくいと提言のあった介護計画はフォーマットに手を入れています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内に設置された意見箱の他、メールにて意見を聞くことができる。年度末には個別の面接を行い意見を聞き反映させるよう努めている。	業務や利用者に関する内容は毎日1、2階合同カンファレンスで取り上げています。ダイレクトにメールで法人へ発信できる仕組みはありますが、日頃のコミュニケーションと面談で勤務シフト、給与への要望を聴き、トップに伝えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の努力や勤務状況、実績について把握し、代表者に報告している。労働時間等について働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修をはじめとして、外部研修など、個々にあった研修に参加できるよう努めている。今後は施設内にて希望に合った研修が出来るよう考えていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や有志の会において職員の交流場面は作られている。勤務状況により参加が限られるが、出来る限り交流の機会が作れるよう努めていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の相談課にて相談員が家族より相談を受けている。本人の困っている事や、要望については、ご家族から聞き取る事が多いが、要望に沿った必要なサービスの利用が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	法人内の相談課にて相談を受け要望や不安を聞き取り、安心してサービスの利用が出来るよう支援している。必要であれば、管理者が話を聴き今後の関係づくりに役立っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の相談課担当者で自宅や施設へ訪問しご家族との話やご本人との話の中で、グループホームにおいての支援を必要とするのか情報交換を行い。他サービスの可能性についても検討する等、信頼関係を築く事が出来るよう努めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状態を把握し、自立した生活を送ることが出来るようさりげなく支援をし、一緒に行動する等、信頼関係を築く事が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者ご本人にとって必要と思われる事は、ご家族に説明し、協力頂いている。今後もご本人の気持ちや支援内容をきちんと理解して頂きながらより良い関係が保てるよう努めていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、こだわりやなじみの関係を継続していく事が出来るよう努めている。	衣類の入替えを家族にお願いしできるだけ足を運んでもらっています。馴染みの病院に通い、帰りに自宅に立ち寄る人もあります。知人や門下生の面会を広く受け入れ刺し子や手芸、書道が続けられるようサポートしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の意思を大切に、伝えることが困難な方でも、自然な交流が出来るよう寄り添い安心した生活を送ることが出来るよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し他施設や在宅へ変更された後においても、必要な場合は情報提供や相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護側の都合や施設の時間にとらわれることなく出来る限り、ご本人の生活習慣を大切にしていけるようスタッフ間での情報交換を常に行い、利用者の意向に沿えるよう努めている。	センター方式研修に参加し、初めて携わる職員にもわかりやすいシートを選択してより深く掘り下げたデータ集積と分析がおこなわれています。初回書込みに加え2回目は赤字で加筆しています。困難な場合は顔色や表情で推し量っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、サービス利用の経過等は法人内の相談員からの記録や入居時の聞き取り及びご家族からの情報収集を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、一人ひとりの昼夜の様子を記録し精神面、身体面の変化の把握に努めている。医師の診察時に報告し心身共に安定した生活が出来るよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画立案時には、モニタリングを行い検討をしている。また、ケア担当者会議にて、医師、看護師栄養士、相談員、介護士が話し合いをしている。	出来るところまで担当職員が作成し各フロアのケアマネージャーが指導しています。モニタリングを全職員でおこない、多職種によるサービス担当者会議を催して計画に盛り込んでいます。プランはカンファレンスで共有しケアの標準化を目指しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のカンファレンスにより、気づいた事を検討し、決まった事柄を見やすいよう個別ファイルにまとめ介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりにあったサービスを提供できるよう支援の方法を検討している。多くは既存のサービス提供になってしまいがちであるが今後はサービスの多機能化も視野に入れていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のお祭りの参加や、グループホーム内での行事において、近隣のお店を活用したり、ボランティアの交流も行っている。法人全体でいる為、単独では難しい面もあるが、今後は良い方法を考えていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意のもと西山病院の医師がかかりつけ医となっている。月2回の往診の他、緊急時にも対応してくれる。耳鼻科、眼科、整形外科は他医療機関へご家族同行で受診して頂いている。	各階隔週の往診で状態把握が容易なこともあり、専門医を除きすべて協力医に変更しています。看護師は随時駆けつけ可能で、母体施設が病院であることから最期まで心強い体制にあります。歯科衛生士による月2回のチェックと歯科医訪問もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に隣接の協力医療機関の看護師に必要時連絡をし適宜相談アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の担当者との会議において、情報交換が行われたり、その都度の報告や相談を行っている。また、法人内の相談課により他機関との相談や譲歩交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りは行っていない事を説明。重度化や医療の必要性について、その都度ご家族に話をし状態状況について理解が得られるよう努めている。また、法人内相談課にてその後のサービスについての説明を聞いて頂いている。	看取りはおこなっていませんが、できるだけ長く事業所で過ごせるよう取組んでいます。家族の受け止めも漠然としている中「まだここで生活できるのでは…」といった疑問には、嚥下状態や入浴可否、繰返しの発熱を機に早い段階において、納得できる話し合いをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は隣接する病院から看護師が直ちにcomingることになっているが、職員としては急変に遭遇した場合の心構えとしても、訓練の必要性がある為、検討していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルや年3回の防災訓練。入居者の避難訓練も行っている。今後は地域の方に訓練の様子を見て頂くようにしていきたい。	法人全体で消防訓練を年3回実施し、うち1度は消防署職員の立合いがあり夜間における応援要員と夜勤職員の役割を明確にしています。地震想定では落下物がなく避難できる場所を探し、「ドアは開けたままにしておくように」と細部にわたり示唆されています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの精神状態やその時の状況を把握した言葉掛けを行っている。利用者の生活リズムに合わせたさりげない誘導、少し待ってみる等、配慮した対応を行っている。	「させていただいている」気持ちを接遇研修で意識づけ、言葉遣いや挨拶を学習しています。羞恥心への細やかな配慮として、入浴では肌の露出にタオルを掛け、また同性介助を基本として親交が生まれるまでは男性職員の介助を控えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの認知機能を把握し、その人の出来る力を大切にしている。表情、言葉の端から感じとり思いを汲み取ることが出来るよう寄り添い待つことを基本としたケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勤務体制の変更、職員の増員により少しずつゆとりが出来ています。日課にとられることなく、利用者のペースを優先に職員との関わりも多く持てるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月び1度の理容師の訪問やご家族の協力により行きつけの美容院への外出。自分で好みの洋服を選び、その人に合ったその人にあったおしゃれが出来るよう支援している。身支度を整える事が困難な場合はさりげなく援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回の手作り昼食では、利用者の好みを考慮したり、楽しく調理が出来るよう工程を工夫したりしています。食事の配膳、片付けは無理強いせず自然な形で手伝って頂けるようにしている。	副食は法人厨房内で調理したものを盛り付けています。月2回の手作り昼食ではお好み焼き、丼物が人気です。台所まで個々の食器をワゴンで運び、「自分で食べたものくらい洗わないとね」とにこやかな表情で洗い上げの順番を待つ姿に和やかな日常があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態である。嚥下に合わせ刻みやトロミ、お粥の提供をしている。アレルギーの方は別の食材を提供し、どの方も同じように栄養が摂取できるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の協力歯科医院の衛生士による口腔ケアの指導を受けている。義歯の方は曜日を決め「入れ歯洗浄剤」を行っている。ご自分でできない方はスタッフが誘導し、介助している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し身体機能の状態によりパットの使用やトイレ誘導を行っている。その際プライバシーに配慮し、自立に向けた支援をしている	紙パンツをはいていてもトイレでの排泄を基本としています。尿意を察し、気持ちよくトイレに行けるタイミングを掴んで失敗の回数が少なくなった頃合いを見て布パンツへの移行を進め清潔保持、自立を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の献立に乳製品があり、また排泄状況の記録や腹部の張り等を確認しながら水分摂取を勧めたり、ヨーグルトや乳酸菌飲料を摂って頂いている。 主治医との相談にて内服薬の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決まっているが、利用者の気持ちに沿って無理強いはいしていない。別フロアでの入浴をされる事も有る。常に気持ちよく入浴して頂けるよう心掛けている。	2階に特浴を設置しましたが現在使用している人もなく、機能維持のために個浴で対応しています。拒否には毎日声をかけ心地よく入れる拍子を計り、またその人のために時間を割けることが双方の満足となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりのその日のリズム、精神状態を観察し、日中の活動を促したり、休息を取って頂いたりしている。必要であれば医師の指示のもと内服薬の利用もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は医師の診察時に説明を受け情報を共有している。内服薬の開始、中止、内服後の状態等記録し症状の変化を見極めるよう努めている。変化があった場合には医師に相談し内服薬の変更を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る力、意思を大切に日々支援している嗜好品や楽しみ事が継続して出来るようスタッフ間で話し合いをしている。ご家族へも説明し協力して頂く事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年2回の外出に限られてはいるが、なるべく本人がいく事ができ、楽しめる場所を選び出かけている外出頻度が少ない為、今後増えていくよう見直していきたい。	週に一度の買い物に同行しています。春と秋には好きなところへ一緒に行く企画があり外食、館山寺ロープウェイ~オルゴール館、足湯、フラワーパーク、ガーデンパークなど「何年かぶりに来た」と喜ばれ、戸外の空気に触れる大切さを感じています。	日々の散歩が難しいようでしたら、僅かな時間であっても室内体操や外気浴の慣行を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には所持して頂いている。少し不安のある方はお預かりし必要時使用して頂くようにしている。混乱を招きやすい方には状況に合わせた対応をし買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話をかける方は限られるが、ご家族知人からの電話には出て頂き話したり、手紙のやり取りが出来るよう職員が協力している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を保つよう努めている。2階は高天井があり暖かい日差しが心地よく、一階は広いテラスがあり、少しの菜園や花が季節を感じさせてくれ、また木々の緑が気持ち良い場所となっている。	転倒予防に動線を確保し観葉植物のグリーンとソファーで広いフロアを仕切り、個人でくつろげる空間を作っています。写真が混乱につながるケースもあり、また書道作品の晴れがましい居場所も欲しく、掲示場所は家族がよく目にするユニット入口と定めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんで集まれる居間や一人、または数人で作業できるテーブルがある。所々に置いた観葉植物がさりげない目隠しとなっており、一人でくつろげる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の身体の状態を考慮した、ダンスやベッドの位置。個々に使い慣れた物を使用して頂く等暮らしやすくその人に合った居室づくりをしている。	ベッド、チェスト、カーテン、エアコンが備付けです。週2回専門業者の清掃が入り、できる人は毎日箒をもって取り組んでいます。机と椅子、家族の写真、書道の筆が持ち込まれ、繰り返し筆筒の衣類を出し入れしても咎めない、その人の過ごしやすい環境作りを旨としています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー。ドアやダンスは開けやすいように軽くできている。必要な箇所には手摺りをつけている。希望により居室に名前を貼っている。台所も利用者の使いやすい高さになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2277101131		
法人名	医療法人一穂会		
事業所名	グループホームハイジの家 2階		
所在地	浜松市西区西山町520番地		
自己評価作成日	平成27年1月28日	評価結果市町村受理日	平成27年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの個性を尊重し、利用者の気持ちを第一に考え支援していきます。法人内の療養型施設に隣接し、健康面、精神面の対応にも安心です。その人らしい暮らしが継続できるよう、スタッフ間で意見を出し合い統一したケアに努めています。常に清潔であるようにこころ掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人を母体とした心強いサポートで暮らしを支える事業所です。「自分で食べたものくらい洗わないとね」とにこやかな表情で洗い上げの順番を待つ姿に和やかな日常がありますが、重度化の波にケアの方法も身体介護技術が求められるようになりました。管理者、主任を中心に移動、移乗や嚙下状態の確認といった勉強会とフィードバックを繰り返し、確実なステップアップとなっています。また本年はセンター方式に取組み、利用者理解が深まっています。文章化するアセスメントシートもより着眼点が明確になり、発語のない利用者のプラン作成に悩んだ職員も、関わりの積み重ねによって言葉や笑顔が増えていく手応えを感じています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「気持ちのわかる親切」「清潔」「和やかな雰囲気」を基本にしている。管理者、職員との共有にあたり、繰り返し理念についての話や確認が必要と感じ、実践していくようにしている。グループホームの理念についても同様である。	法人理念、事業所理念は玄関に掲げています。法人理念の浸透と共に「事業所としてもほしい」との声から職員全員で考案しました。年に一度の面談で理念についての振り返っており、なかでも「清潔」は意識が高く「汚れたらすぐに」が徹底されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内のお祭りの参加やお店の利用に留まっており日常的な交流にはいたっていない。法人全体で行っており、グループホームとしてのかかわり方を模索中である。	母体病院敷地内の一画にあり日常的な交流は叶っていませんが、近くにある神社の祭典や地元住民で賑わう法人夏祭りに出向き、ふれあいを愉しんでいます。ギター、ピアノ演奏や高校生ボランティアの受入れもあります。	地域包括ケアを視野に入れ法人のスケールメリットを活かした地域交流を期待いたします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人全体として行っている。グループホームとして地域の方への働きかけは、現状として出来にくい部分がある。運営推進会議にて、情報を伝えたりボランティアとの交流により理解を深めて頂くよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動、現状報告が主であるが、地域包括支援センター職員、地域住民代表、市担当者、ご家族代表等の方々より地域の様子や防災関係については貴重な情報収集の場となっている	奇数月の第三火曜日と定め定期開催しています。インシデント、アクシデントについての詳細な報告にアイデアが寄せられ、年度初めには自主防災委員に施設内見学をお願いしました。近隣の危険箇所といった貴重な情報が得られています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に一度の運営推進会議にて、市の担当者に現状を報告し、市の相談員の来訪にて現状をみて頂いている	運営推進会議には毎回出席があり議事録を手渡しています。地域包括支援センターには困難事例を相談し、年に3回のグループホーム連絡協議会や事例検討と発表会、ケママネ連絡会の繋がりもあります。訪れる介護相談員は気になることがあれば進言くださっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の周知については、法人内の研修に参加し理解していくようにしている施錠については利用者の状況にもよるが基本的には開錠としている。時間帯ややむをえない場合のみとしている。	法人内勉強会や伝達講習で学んでいます。過去に単独外出もあったことから、電子ロックは職員が1名となる時間帯に限り施錠し、利用者の所在と職員配置を確認する責任者を決めて開錠しています。居室サイドコールやセンサーマットにはプライバシーも考慮して訪室しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束を学ぶ際に、虐待についても学んでいます。高齢者虐待防止関連法についての記述はあるもののすべての職員が閲覧し考えていく事が出来るよう努めていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	院内研修にて勉強するのみに留まり、活用支援については、法人内の担当者が主にしている。知識として学んでいく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	法人内相談課にて十分な説明のもと、不安や疑問に関しては、管理者が直接説明する機会を設けており、理解している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議での意見交換、面会時や介護計画立案時に意見や要望を聞き、必要であれば、その都度電話にて説明をしている。	面会時の対話や電話連絡、サービス担当者会議、法人内アンケートと機会を設けています。ほとんどが感謝の言葉ですが、直接言いにくい記述もあり改善策を講じています。わかりにくいと提言のあった介護計画はフォーマットに手を入れています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人内に設置された意見箱の他、メールにて意見を聞くことができる。年度末には個別の面接を行い意見を聞き反映させるよう努めている。	業務や利用者に関する内容は毎日1、2階合同カンファレンスで取り上げています。ダイレクトにメールで法人へ発信できる仕組みはありますが、日頃のコミュニケーションと面談で勤務シフト、給与への要望を聴き、トップに伝えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の努力や勤務状況、実績について把握し、代表者に報告している。労働時間等について働きやすい環境になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	院内研修をはじめとして、外部研修など、個々にあった研修に参加できるよう努めている。今後は施設内にて希望に合った研修が出来るよう考えていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や有志の会において職員の交流場面は作られている。勤務状況により参加が限られるが、出来る限り交流の機会が作れるよう努めていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	法人内の相談課にて相談員が家族より相談を受けている。本人の困っている事や、要望については、ご家族から聞き取る事が多いが、要望に沿った必要なサービスの利用が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	法人内の相談課にて相談を受け要望や不安を聞き取り、安心してサービスの利用が出来るよう支援している。必要であれば、管理者が話を聴き今後の関係づくりに役立っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内の相談課担当者で自宅や施設へ訪問しご家族との話やご本人との話の中で、グループホームにおいての支援を必要とするのか情報交換を行い。他サービスの可能性についても検討する等、信頼関係を築く事が出来るよう努めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の状態を把握し、自立した生活を送ることが出来るようさりげなく支援をし、一緒に行動する等、信頼関係を築く事が出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者ご本人にとって必要と思われる事は、ご家族に説明し、協力頂いている。今後もご本人の気持ちや支援内容をきちんと理解して頂きながらより良い関係が保てるよう努めていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、こだわりやなじみの関係を継続していく事が出来るよう努めている。	衣類の入替えを家族にお願いしできるだけ足を運んでもらっています。馴染みの病院に通い、帰りに自宅に立ち寄る人もあります。知人や門下生の面会を広く受け入れ刺し子や手芸、書道が続けられるようサポートしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の意思を大切に、伝えることが困難な方でも、自然な交流が出来るよう寄り添い安心した生活を送ることが出来るよう支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了し他施設や在宅へ変更された後においても、必要な場合は情報提供や相談を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護側の都合や施設の時間にとらわれることなく出来る限り、ご本人の生活習慣を大切にしていけるようスタッフ間での情報交換を常に行い、利用者の意向に沿えるよう努めている。	センター方式研修に参加し、初めて携わる職員にもわかりやすいシートを選択してより深く掘り下げたデータ集積と分析がおこなわれています。初回書込みに加え2回目は赤字で加筆しています。困難な場合は顔色や表情で推し量っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、サービス利用の経過等は法人内の相談員からの記録や入居時の聞き取り及びご家族からの情報収集を行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、一人ひとりの昼夜の様子を記録し精神面、身体面の変化の把握に努めている。医師の診察時に報告し心身共に安定した生活が出来るよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画立案時には、モニタリングを行い検討をしている。また、ケア担当者会議にて、医師、看護師栄養士、相談員、介護士が話し合いをしている。	出来るところまで担当職員が作成し各フロアのケアマネージャーが指導しています。モニタリングを全職員でおこない、多職種によるサービス担当者会議を催して計画に盛り込んでいます。プランはカンファレンスで共有しケアの標準化を目指しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のカンファレンスにより、気づいた事を検討し、決まった事柄を見やすいよう個別ファイルにまとめ介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者一人ひとりにあったサービスを提供できるよう支援の方法を検討している。多くは既存のサービス提供になってしまいがちであるが今後はサービスの多機能化も視野に入れていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内のお祭りの参加や、グループホーム内での行事において、近隣のお店を活用したり、ボランティアの交流も行っている。法人全体でいる為、単独では難しい面もあるが、今後は良い方法を考えていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の同意のもと西山病院の医師がかかりつけ医となっている。月2回の往診の他、緊急時にも対応してくれる。耳鼻科、眼科、整形外科は他医療機関へご家族同行で受診して頂いている。	各階隔週の往診で状態把握が容易なこともあり、専門医を除きすべて協力医に変更しています。看護師は随時駆けつけ可能で、母体施設が病院であることから最期まで心強い体制にあります。歯科衛生士による月2回のチェックと歯科医訪問もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に隣接の協力医療機関の看護師に必要時連絡をし適宜相談アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内の担当者との会議において、情報交換が行われたり、その都度の報告や相談を行っている。また、法人内の相談課により他機関との相談や譲歩交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りは行っていない事を説明。重度化や医療の必要性について、その都度ご家族に話をし状態状況について理解が得られるよう努めている。また、法人内相談課にてその後のサービスについての説明を聞いて頂いている。	看取りはおこなっていませんが、できるだけ長く事業所で過ごせるよう取組んでいます。家族の受け止めも漠然としている中「まだここで生活できるのでは…」といった疑問には、嚥下状態や入浴可否、繰返しの発熱を機に早い段階において、納得できる話し合いをしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は隣接する病院から看護師が直ちに來ることになっているが、職員としては急変に遭遇した場合の心構えとしても、訓練の必要性がある為、検討していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルや年3回の防災訓練。入居者の避難訓練も行っている。今後は地域の方に訓練の様子を見て頂くようにしていきたい。	法人全体で消防訓練を年3回実施し、うち1度は消防署職員の立合いがあり夜間における応援要員と夜勤職員の役割を明確にしています。地震想定では落下物がなく避難できる場所を探し、「ドアは開けたままにしておくように」と細部にわたり示唆されています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの精神状態やその時の状況を把握した言葉掛けを行っている。利用者の生活リズムに合わせてさりげない誘導、少し待ってみる等、配慮した対応を行っている。	「させていたでいる」気持ちを接遇研修で意識づけ、言葉遣いや挨拶を学習しています。羞恥心への細やかな配慮として、入浴では肌の露出にタオルを掛け、また同性介助を基本として親交が生まれるまでは男性職員の介助を控えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの認知機能を把握し、その人の出来る力を大切にしている。表情、言葉の端から感じとり思いを汲み取ることが出来るよう寄り添い待つことを基本としたケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勤務体制の変更、職員の増員により少しずつゆとりが出来ています。日課にとられることなく、利用者のペースを優先に職員との関わりも多く持てるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月び1度の理容師の訪問やご家族の協力により行きつけの美容院への外出。自分で好みの洋服を選び、その人に合ったその人にあつたおしゃれが出来るよう支援している。身支度を整える事が困難な場合はさりげなく援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月2回の手作り昼食では、利用者の好みを考慮したり、楽しく調理が出来るよう工程を工夫したりしています。食事の配膳、片付けは無理強いせず自然な形で手伝って頂けるようにしている。	副食は法人厨房内で調理したものを盛り付けています。月2回の手作り昼食ではお好み焼き、丼物が人気です。台所まで個々の食器をワゴンで運び、「自分で食べたものくらい洗わないとね」とにこやかな表情で洗上げの順番を待つ姿に和やかな日常があります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態である。嚥下に合わせ刻みやトロミ、お粥の提供をしている。アレルギーの方は別の食材を提供し、どの方も同じように栄養が摂取できるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月2回の協力歯科医院の衛生士による口腔ケアの指導を受けている。義歯の方は曜日を決め「入れ歯洗浄剤」を行っている。ご自分でできない方はスタッフが誘導し、介助している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し身体機能の状態によりパットの使用やトイレ誘導を行っている。その際プライバシーに配慮し、自立に向けた支援をしている	紙パンツをはいていてもトイレでの排泄を基本としています。尿意を察し、気持ちよくトイレに行けるタイミングを掴んで失敗の回数が少なくなった頃合いを見て布パンツへの移行を進め清潔保持、自立を支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の献立に乳製品があり、また排泄状況の記録や腹部の張り等を確認しながら水分摂取を勧めたり、ヨーグルトや乳酸菌飲料を摂って頂いている。 主治医との相談にて内服薬の調整もやっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間帯は決まっているが、利用者の気持ちに沿って無理強いはいしていない。別フロアでの入浴をされる事も有る。常に気持ちよく入浴して頂けるよう心掛けている。	2階に特浴を設置しましたが現在使用している人もなく、機能維持のために個浴で対応しています。拒否には毎日声をかけ心地よく入れる拍子を計り、またその人のために時間を割けることが双方の満足となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりのその日のリズム、精神状態を観察し、日中の活動を促したり、休息を取って頂いたりしている。必要であれば医師の指示のもと内服薬の利用もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は医師の診察時に説明を受け情報を共有している。内服薬の開始、中止、内服後の状態等記録し症状の変化を見極めるよう努めている。変化があった場合には医師に相談し内服薬の変更を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る力、意思を大切に日々支援している嗜好品や楽しみ事が継続して出来るようスタッフ間で話し合いをしている。ご家族へも説明し協力して頂く事もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	年2回の外出に限られてはいるが、なるべくご本人がいく事ができ、楽しめる場所を選び出かけている外出頻度が少ない為、今後増えていくよう見直していきたい。	週に一度の買い物に同行しています。春と秋には好きなところへ一緒に行く企画があり外食、館山寺ロープウェイ～オルゴール館、足湯、フラワーパーク、ガーデンパークなど「何年かぶりに来た」と喜ばれ、戸外の空気に触れる大切さを感じています。	日々の散歩が難しいようでしたら、僅かな時間であっても室内体操や外気浴の慣行を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には所持して頂いている。少し不安のある方はお預かりし必要時使用して頂くようにしている。混乱を招きやすい方には状況に合わせた対応をし買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話をかける方は限られるが、ご家族知人からの電話には出て頂き話したり、手紙のやり取りが出来るよう職員が協力している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔を保つよう努めている。2階は高天井があり暖かい日差しが心地よく、一階は広いテラスがあり、少しの菜園や花が季節を感じさせてくれ、また木々の緑が気持ち良い場所となっている。	転倒予防に動線を確保し観葉植物のグリーンとソファーで広いフロアを仕切り、個人でくつろげる空間を作っています。写真が混乱につながるケースもあり、また書道作品の晴れがましい居場所も欲しく、掲示場所は家族がよく目にするユニット入口と定めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆さんで集まれる居間や一人、または数人で作業できるテーブルがある。所々に置いた観葉植物がさりげない目隠しとなっており、一人でくつろげる場所となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の身体の状態を考慮した、ダンスやベッドの位置。個々に使い慣れた物を使用して頂く等暮らしやすくその人に合った居室づくりをしている。	ベッド、チェスト、カーテン、エアコンが備付けです。週2回専門業者の清掃が入り、できる人は毎日箒をもって取り組んでいます。机と椅子、家族の写真、書道の筆が持ち込まれ、繰り返し筆筒の衣類を出し入れしても咎めない、その人の過ごしやすい環境作りを旨としています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー。ドアやダンスは開けやすいように軽くできている。必要な箇所には手摺りをつけている。希望により居室に名前を貼っている。台所も利用者の使いやすい高さになっている。		